



## 第5回 働く女性の

# 「エネルギーセミナー」実施レポート

東北エネルギー懇談会では、2025年10月3日および10日、会員企業の女性社員の皆さまを対象にした「エネルギーセミナー」(2回シリーズ)を実施しました。タイプの異なる発電施設の見学とグループディスカッションを組み合わせることで、親睦を深めながらエネルギーミックスについて学びました。今年で5回目の開催となり、今回は15名の皆さまにご参加いただきました。

### 1回目(10月3日)

1回目(10月3日)は、東日本大震災で大きな被害を受けた女川町の街並みと東北電力(株)女川原子力発電所の見学です。

午前中は、地元で生まれ育ち、被災した語り部ガイドと一緒に女川駅前を歩きながら、当時の状況や復興に向けた街づくりについて説明を受けました。

午後は、女川原子力発電所の見学です。女川2号機は昨年11月に再稼働(発電再開)を果たし、12月26日に14年ぶりに営業運転を開

始しました。まず、女川原子力PRセンターで原子炉模型などを見学し、原子力発電のしくみを学びました。その後、専用バスで発電所構内へ移動し、緊急時対策建屋や海拔29m、全長約800mの防潮堤などを見学しました。

最後は、女川2号機の内부를360度カメラで撮影したVR映像を見て、発電所内部の機重にも施された安全対策工事について学びました。

原子力発電所を初めて訪れる参加者も多く、日頃か

らの女川地域の住民とのコミュニケーションや警備体制など、たくさん質問が出され、理解を深めていました。



女川駅から震災復興後の女川町の街並みを眺める



原子炉模型で原子力発電のしくみを学ぶ



女川原子力発電所の安全対策を学ぶ



女川原子力PRセンターでの集合写真



女川原子力発電所見学後の質疑応答



女川2号機の内부를VR見学

### 2回目(10月10日)

2回目(10月10日)は、日本の水力発電発祥の地として知られる東北電力(株)三居沢発電所ならびに三居沢電気百年館の見学と、エネルギー勉強会を行いました。

午前中は、三居沢電気百年館で水力発電のしくみを学んだあと、長い階段を上って、広瀬川から取り入れた水を貯める貯水槽や落差約27mで発電所へと至る水圧鋼管などを見学しました。その後、国の登録有形文化財、経済産業省の近代化産業遺産に認定されている三居沢発電所の中で、実際の

水車や発電機を見ながら説明を受けました。

参加者からは、近年の異常気象に備えたリスク管理や発電所の監視方法について質問が寄せられ、熱心に学ぶ姿が印象的でした。

午後は後藤宏専務理事のエネルギー講話のあと、4つのグループに分かれて「グループディスカッション」を実施しました。「日本の電源構成(原子力・火力・再エネ)はこれからどう変わっていくと良いと思いますか?」というテーマに基づきディスカッションを行い、グループごとに発表しました。



三居沢電気百年館で水力発電のしくみを学ぶ



三居沢発電所の水車と発電機を見学



日本の電源構成についてグループの意見を発表

### 参加された方々の感想

原子力や再エネについては、メリット・デメリットがあり、簡単には答えが出せない難しいテーマです。だからこそ、もっと多くの方に関心をもってもらい、それぞれのエネルギーの特徴や

課題を理解した上で、未来のエネルギーの選択について模索していくことが大切だと感じました。



エネルギーミックスについてただ漠然と、様々なエネルギーを組み合わせることが大事と思っていましたが、エネルギー講話でコスト・設備投資・土地などの条件面において、難しい課題が多いことを学びました。



## グループディスカッションで 出た意見

- 再エネはCO<sub>2</sub>の発生が少なく、持続可能なエネルギーなので増やしていきたいが、太陽光、風力発電設備の新設に伴う森林伐採など生態系に与える影響や、近年の異常気象のなかで安定供給できるのか懸念している。
- 「少ない燃料で莫大なエネルギーを生み出せる」「電気代が安い」などのメリットを聞いて、原子力の割合は現状維持がいいと思った。しかし、地域住民へ丁寧に説明する必要がある。
- 今回、原子力発電所の安全対策を知り、「環境にやさしい」「エネルギー自給率をあげられる」などの理由から、原子力発電所の再稼働を進めていく必要があると感じた。
- エネルギーを貯めることができない以上、調整する役割を果たす火力発電は現状維持としたほうがよい。
- 天候に左右されるものの、2050年のカーボンニュートラルに向けて再エネは増やしていくほうがよい。